

要約 200607 マルコ 8 章 1 節～10 節「7つのかごのパン」 招詞：詩編 34 章 8-10 節。

交読文：詩編 105 篇 1-6 節 参考：マルコ 6:30-44 5 千人の給食

序 マルコ 7:31 イエスは、デカポリス地方を通り抜けてガリラヤ湖に来た。8 章 1 節同じ所の可能性。遠くから来ている人もいるというのは、ツロヤシドンからも来ているとも考えられる。イエス様は、4 千人の群衆に 7 つのパンで満たしたこの奇跡を通して特に弟子にご自身が神であることを示されている。

1. イエス様がかawaiiそうに思われた。「群衆が途中で動けなくなる。失神してしまう。」と。
この群衆に対して、イエス様からの「かawaiiそうに」。群衆を見ていたイエス様の思い。
6 章では、飼いのいない羊のような群衆の様子を憐れまれた。牧会的、靈的哀れみ。
8 章では、空腹を覚えているだろうが、なおイエス様と共にいようとする群衆への哀れみ。
2. イエス様の指示があった。パンの数を尋ね、座るように命じられた。
イエス様は、同じ質問をしている。「パンはいくつありますか。」弟子たちは答えた。
6 章では「男が 5 千人」(44)、8 章では「およそ 4 千人」いた。イエス様が弟子達を呼び、群衆が「3 日間も共にいて食べるものを持っていない」と言った。弟子たちの反応は方法を尋ねている。
3. イエス様はパンを配られた。そして魚も配られた。パンと魚を配る前の動作の描写違い。
6 章は、パンと魚を一緒にとって、天を見上げて神をほめたたえ、パンを裂いている。
8 章は、それから七つのパンを取り、感謝の祈りをささげてからそれを裂き、後で小魚。
これは、イエス様が十字架に掛けられる前に制定した聖餐式のもとのよう。
4. 余りのパン切れは 7 つのかごになった。
「かご」に使われている単語が 6 章と異なる。皆がそれぞれ持っていた大きさもまちまちのかご。十分にあったということが示されている。7 が示すのは、完全さ、十分さ、不足がない、丁度の期間。
創世記 7 日目に休まれた。ノアの箱舟にきよい動物を 7 つがいつつ。ヤコブはラケルの為に 7 年働いた。
この尽きない、豊かなパンは、出エジプト記にある荒野でイスラエルの民に与えられたマナ。
7 つのかごのパンが示すことは、満ち足りること。主なる神であられるイエス様と共にあることは、不足なく満ち足りることを、二度の奇跡によってより明らかにする。イエス様と共にいることの意味。

結 二度の奇跡からパンの奇跡の目的は特に弟子たちにイエス様ご自身をはっきりとご自身を示す。人を憐れみ、人々を思い、人間には不可能なことを成し遂げるお方で、私たち一人一人に関わって下さる。羊飼いのいない羊の群れのような群衆に対して、イエス様は羊飼いとして、彼らの体と魂の必要を満たした。それから 7 つのかごのパンを弟子に委ねた。

私たちの欠乏は肉体の欠乏だけでなく、魂の欠乏がある。それは罪から来る。人の中にある罪の汚れを取り除いて下さり、その欠けを愛で満たして下さるのがイエス・キリスト。イエス様は命のパンである。身体と魂が窮乏している人へ、愛と命のパンを渡したい。そのパンは尽きることが無いのだから。